

西国三十三番札所巡礼絵図

ここに、展示している絵図と道中記は当館に寄託されている堀家文書中に含まれている史料です。「西国三十三番札所巡礼絵図」は粉川南町に店を構えていた出版書肆の大坂屋長三郎が発行したものです。現時点では大坂屋長三郎の発行物の初見は、明和二年（一七六五）の『道しるべ』ですが、その後、『巡礼道中指南車』天明二年（一七八二）、『西国道中巡礼記』寛政三年（一七九一）、『順道ひとり案内』寛政三年（一七九一）、『じゅんれいゑんぎ』享和二年（一八〇二）、『増補指南車』文化三年（一八〇六）等を矢継ぎ早に出版しています。しかし、一枚刷りの絵図としては従来『道中独案内図』と『西国順禮道中絵図』の二点しか発見されていませんでした。この「西国三十三番札所巡礼絵図」には版年が明記されていませんが、内容的には、先の二点の絵図に新たな情報を加えて、刷り直したものと思われる。状態は余り良いとはいえませんが、本街道部分が彩色されていますので、歩くには重宝したことでしょう。図の左下部にある刊記の部分に「名所へまはる道のり附」として、「二ばんより三ばんの間にて己かのうら己か山へ行ば二りのまはり」などと、いわゆる観光のための寄り道をした場合、どの程度の距離の回り道になるかを明記して時間を計る目安を示してくれているのは、ありがたいことだったでしょう。

西国道中記

この道中記は、残念ながら大坂屋長三郎が出版した上記の案内記ではありませんが、内容は大差のないものです。本書は表紙を含めてたったの一二丁ですが、大坂屋長三郎が出版した上記の案内記は発行年が遅くなればなるほど丁数が増えており、どんどん新たな情報を追加していっています。

ところで、この道中記の表紙には目録（目次）が刷り込まれており、内容が一目で分かるようにしていますが、そこには「順礼ゑんぎ 同ゑいか 伊勢より四番迄 五番より卅三番 右卅三番迄道中記ハ大坂宿長町八丁目 鍵（蔵の鍵のような宿の意匠）屋ニテ進上仕候」とあります。つまり、これは売り物ではなく、大坂長町八丁目にあった順礼宿の鍵屋（通り名）こと「でんぼうや喜兵衛」が宿泊客に無料で配布していたものであったということが分かります。

ここでは、和歌山県内の三つの札所の御詠歌を紹介しましょう。

一ばん なちさん

ふだらくやきしうつなミハみくまのゝなちのおやまにひびくたきつせ

二ばん きミゐでら

ふるさとをはるばるこゝにきみい寺はなのみやこもちかくなるらん

三ばん こかハでら

ちゝはゝのめぐミもふかきこかハ寺ほとけのちかひたのもしのミヤ

（文責：須山 高明）